

札幌市で展開される園芸ボランティア活動における市民グループの類型化とその特徴

Classifications and Characteristics of Citizen Groups Engaged in Horticultural Volunteer Activities in Sapporo City

御手洗洋蔵* 愛甲 哲也** 小池安比古***
 Yozo MITARAI Tetsuya AIKOH Yasuhiko KOIKE

Abstract: In these days, citizens living in urban areas are increasingly interested in developing their communities. As a part of the process of their community developments, there are various kinds of citizen groups engaged in horticultural volunteer activities in public spaces such as urban parks, open spaces along sidewalks and several public facilities. In this study, we conducted interviews with each leader of 20 citizen groups which taking care of flowers in Sapporo city to reveal the attitudes of their groups. In the process of this research, we focused on the difference of places where these volunteer activities were being conducted and the difference of relationships with neighbors. As the result, it appeared that 20 citizen groups were classified into four categories from two aspects whether they are conducting planting and maintaining flowers at sidewalks or neighboring flowerbeds, and they work cooperating with other neighbor volunteer groups. Each four categories have different motivations or issues relating to horticultural volunteer activities. In order to take measures to address each issue, it is necessary to build coalitions across several volunteer groups and community groups.

Keywords: horticultural activities, volunteer activities, public space, citizen participation, citizen group

キーワード： 園芸活動, ボランティア活動, 公共空間, 市民参加, 市民グループ

1. 背景・目的

今日、街路空間や公園花壇などでの市民による植栽の管理ボランティア活動(以下、本稿において「園芸ボランティア活動」とする)が多く自治体でみられるようになってきている¹⁾。まち中での園芸ボランティア活動は、活動者に精神的な充足をもたらすとともに、景観の向上や参加者同士の交流を通じたコミュニティ形成にも期待できるとされている²⁾。これまで公共空間での植栽管理は、主として町内会などの地縁団体を母体とした愛護会などの活動の一環として行われることが多かったが³⁾、近年のまちづくりに対する市民の高い関心などを背景に、地縁団体の他に花壇の植栽を主目的として活動する園芸愛好家によるグループもみられるようになってきている⁴⁾⁵⁾。

このような状況の中、みどりのまちづくりに携わる市民グループに関する既往研究をみると、公園管理に携わる公園愛護会について、発足経緯や状況を明らかにした研究⁶⁾、住区基幹公園の管理活動について、市民グループの形成過程からそれらを類型化し活動実態について報告した研究⁷⁾⁸⁾、市民グループの組織化される過程を明らかにした研究⁹⁾、神戸市での公園管理活動について、活動促進のための支援策を述べた研究¹⁰⁾、千葉市での公園管理活動を事例に、市民グループと行政との連携において活動主体間を結ぶ中間的な組織の必要性を述べた研究¹¹⁾、街路沿道の管理活動について、道路の美観向上などの効果があることを明らかにした研究¹²⁾などがある。このように、みどりのまちづくりに携わる市民グループについては多くの既往研究が存在するが、それらの多くが主に都市公園で活動する市民グループを対象としたものであることに気付く。したがって、都市公園のみならず、街路空間や病院などの公共施設で園芸ボランティア活動を行う市民グループも含め、グループ形態やそれらが抱える課題などについて整理・考察した研究はみられない。

一方、本研究の対象地とした札幌市では、他の自治体同様「緑

の愛護員制度」を設け、主に地縁団体の役職者に、地域の緑化活動で指導的な役割を担う愛護員を委嘱してきた。島尾らの研究でも、市民によるみどりのまちづくりが発生・組織化される要因として、地縁団体が母体となることが述べられている⁷⁾。しかしながら、札幌市では、多様なボランティアグループの発生や、愛護員制度の形骸化、そして地縁団体の負担軽減が求められていたことから、2009年に「緑の愛護員制度」を廃止し、新たに「さっぽろタウンガーデナー制度」を設置した。新制度では、花や緑のまちづくりに携わる活動主体間のネットワークづくりのための支援を行っている。

そこで本研究では、札幌市の展開する「さっぽろタウンガーデナー制度」に登録している市民グループを対象に、街路空間や公園花壇、その他の公共施設などで園芸ボランティア活動を実践する市民グループの類型化を試みるとともに、活動を運営する上での課題を整理し、行政支援のあり方について考察することを目的とした。

2. 研究の方法

(1) 調査対象

本研究では、札幌市の展開する「さっぽろタウンガーデナー制度」に登録している市民グループを対象とした。この制度は札幌市出資の組織である財団法人札幌市公園緑化協会内に設置された「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」によって運営されている。本制度は、「花や緑に関するまちづくり活動を自主的に取り組む市民を公募して登録することにより、活動主体間の情報共有やネットワークづくりを推進する」¹³⁾ものであり、花と緑に関するワークショップや講習・講演会の開催、会報やホームページでの各グループや個人の情報発信など、ソフト面の支援を行っている。2011年現在、この制度には24の市民グループが登録しており、市内の街路沿道の緑地帯、公園や公共施設の花壇で植栽管理を行っている。本研究では、「さっぽろタ

*東京農業大学大学院農学研究科

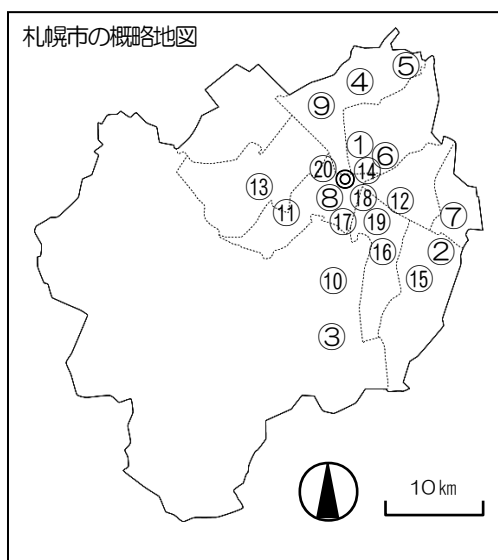
**北海道大学大学院農学研究院

***東京農業大学農学部

表-1 市民グループの基礎情報

番号	グループ名	調査日	活動場所	活動年数	総メンバー数・(実働メンバー数)	実働メンバーの年齢層	メンバー構成
1	北8-北11 フラワー創造会	2011/8/19	街路沿道の緑地帯	2年	20名 (12名)	60~70代	主に地域の有志(地域外からの参加もあり)。
2	平岡みどりの輪	2011/8/20	街路沿道の緑地帯	3年	14名 (14名)	30~60代	地域の有志。
3	芸術の森フラワーロードに 花を咲かせる会	2011/8/21	街路沿道の緑地帯	10年	約170名 (約50名)	50~70代	地域の有志。
4	秋桜(コスモス)	2011/8/30	・街路沿道の緑地帯 ・街路沿道の遊休地	10年	約50名 (約20名)	40~70代	地域の有志。
5	あいの里花クラブ	2011/8/31	街路沿道の緑地帯	1年	15名 (8名)	50~70代	地域の有志。
6	AMAサポーターズ倶楽部	2011/9/5	街路沿道の緑地帯	8年	約160名 (約30名)	50~70代	主に地域の有志(地域外からの参加もあり)。
7	まちづくりサルビア会	2011/9/5	・街路沿道の緑地帯 ・駅前花壇	4年	26名 (10名)	60~70代	主に地域の住民(地域外からの参加もあり)。
8	NPO法人 シズネット (花壇ボランティア)	2011/8/22	公園内花壇 ^{補注1}	1年	43名 (43名)	60~70代	NPO法人の中に設置された花壇ボランティアサークル(主に地域外からの参加)。
9	新琴似六番通り 街づくりクラブ(花くらぶ)	2011/8/22	遊休地内花壇	17年 ^{補注2} (6年)	約18名 (約10名)	不明	地域の有志。
10	グリーンエプロンズ	2011/8/24	公園内花壇	4年	12名 (12名)	30~60代	共通のオープンガーデン組織に所属するメンバーの有志(地域外からの参加もあり)。
11	札幌市立三角山小学校 花壇ボランティア	2011/8/25	小学校内花壇	2年	20名 (10名)	30~40代	PTAの有志によるボランティアサークル(地域の住民)。
12	東札幌病院ボランティアグループ いずみ	2011/8/28	病院内の鉢物と 屋上テラスの植栽	27年	6名 (6名)	50~60代	院内ボランティアの園芸部(主に地域外からの参加)。
13	園芸療法 “く〜んの会”	2011/8/29	病院内花壇	6年	15名 (10名)	50~60代	園芸療法士らを中心とする集まり(主に地域外からの参加)。
14	大学村の森を守る会	2011/8/30	公園内の一部植栽	15年	10名 (10名)	60~70代	地域の有志。
15	環境サポーターズ 「三次郎の会」	2011/9/1	公園内の一部植栽 ^{補注1}	2年	23名 (15名)	60~70代	地域の有志。
16	ゆめガーデンサポーターズ (南羊ヶ丘町内会)	2011/9/6	道路残地内花壇	2年	16名 (10名)	60~70代	地域の有志。
17	伏見ガ－デニングサークル 陽だまり	2011/9/7	遊休地内花壇	初年	23名 (16名)	40~70代	地域の有志。
18	あるばローズ	2011/9/8	公園内花壇	1年	10名 (5名)	50~70代	主に園芸学校の受講時の仲間を中心に結成(主に地域外からの参加)。
19	豊平公園 花とハーブの会	2011/9/8	公園内の一部植栽 ^{補注1}	1年	25名 (7名)	60~70代	公園側からのボランティア募集で集まった人々(主に地域外からの参加)。
20	市立札幌病院ボランティアの会 やさしさジェントル(園芸部)	2011/9/12	病院内花壇	15年	18名 (15名)	50~70代	院内ボランティアの園芸部(主に地域外からの参加)。

補注1：これら3グループが活動する公園では、公園管理事務所が設置されており、主に公園管理事務所の指導のもと植栽管理や除草などの作業と、管理事務所の許可する範囲で自主的な活動を展開している。
補注2：街づくり全般に関わる街づくりクラブとしては17年、花壇の植栽管理を主に行っている花クラブとしては6年活動している。



※ 図中の丸囲み数字は表-1中の番号と対応している。なお、活動グループが地図右側に偏在しているが、その理由として、札幌市西部は主に森林地帯となっており、活動グループのみられないことが挙げられる。

図-1 市民グループの活動場所の位置図

ウナゲナー制度」に登録する 24 の市民グループ全てに調査依頼書を送り、協力の得られた 21 グループの代表者に対して聞き取り調査を行った。

(2) 調査内容

調査期間は2011年8月19日～9月12日の約1か月間とし、聞き取り調査では、グループ代表に直接対面し、グループの活動年数・頻度、メンバー数・構成、活動目的、活動内容、地域組織との連携の有無、行政からの支援内容、活動を運営する上での課題などについて聞き取りを行った。さらに、聞き取り内容を補完するため、「さっぽろ花と緑のネットワーク事務局」が登録する市民やグループに向けて毎月発行している花と緑のネットワーク通信も参考とした。

3. 結果

代表者への聞き取り調査の結果より、自宅兼事務所の庭での代表者個人による活動であった1グループについては調査対象から除外した。そのため、計 20 の市民グループについて以下の分析を行うものとした。20 グループの調査時期および基礎情報を表-1に、活動場所の位置を図-1に示す。

まず、対象となった市民グループを活動場所の相違により二つに分類した。街路沿道の緑地帯などで植物の管理を行っているグループを「街路系」、一方、公園内や住宅地の区画整理などで生じた遊休地内、または病院などの公共施設内に設置された花壇で活動を行っているグループを「花壇系」とした。さらにこれら二つの系統各々について、地域組織(本稿では、地域組織を、地域住民を主体とした「町内会」と地域外からの人の参加もみられる「近隣企業・学校」に大きく二分したい)からの花苗や運営費の提供、あるいは協働での植栽管理の実施というかたちで連携を図っている市民グループを「地域連携型」、地域

表-2 市民グループの類型化とその特徴

系統	型	番号	グループ名	活動目的	地域組織との連携				行政からの支援		その他の花苗・運営費の調達方法	運営上の課題	
					町内会		近隣企業・学校 ^{補注1}		花苗など	情報など			
					花苗や運営費の提供	植栽管理の協働実施	花苗や運営費の提供	植栽管理の協働実施					
街路系	地域連携型	2	平岡みどりの輪	循環道の緑地帯での花づくりを通じて地域のコミュニケーション、つながりをつくっていきたい。	○	○		○	○	メンバーの会費。花苗についてはメンバーからの持ち込みもある。	地域住民や町内会との良好な関係を今後も継続して築いていくこと。		
		3	芸術の森フラワ-ロードに花を咲かせる会	「自分たちの足元は自分たちできれいに」を合言葉に、園道沿いをきれいな花で彩ること。		○ ^{補注2}	○	○	○	地域住民などからの協賛金。	次の世代へどう交代していくか。		
		4	秋桜(コスモス)	団体名にもなっているコスモスなどの季節の花が咲き誇る美しい地域づくり。		○	○	○	○	地域バザーによる収益。前年度栽培した植物から採取した種子を利用している。	メンバーが次第に高齢化してきて、まだ後継ぎが育っていない。		
		6	AMAサポ-ターズ倶楽部	かつて雑草で覆われていた街路沿道を街の歴史にちなむ亜麻やホップで飾り、地域の街路を花で彩ることが目的。		○	○	○	○	地域のバザーによる収益。メンバーなどが苗を種子から育てて持ち寄っている。	次世代の後継者の育成。		
	単独型	1	北8-北11フラワ-創遊会	創成川沿いの緑地帯を花でいっぱいにする。メンバー自身の健康のために花づくりを楽しむという感じで取り組んでいる。					○	メンバーの会費。前年度栽培した植物から採取した種子の利用。	共に活動してくれる若い参加者がいない。		
		5	あいの里花クラブ	メンバーが「好きな時に、自由に」参加できる活動スタイルで、楽しみながらフラワ-ロードを作っていく。					○	メンバーで育てた苗を持ち寄っている。前年度栽培した植物から採取した種子を利用している。	花の盗難と、転居による実働メンバーの減少。活動費の捻出。		
		7	まちづくりサルビア会	園芸講習会で知り合った仲間と街中を花で彩り、無理なく楽しく活動すること。					○	○	前年度栽培した植物から採取した種子を利用している。	メンバーの多くが高齢のため、実働メンバーが年々減少してきていること。	
花壇系	地域連携型	9	新琴似六番通り街づくりクラブ(花くらぶ)	道路脇の空地に花壇をつくり「みんなで作る花壇」とし、元々ある木々とともにまち全体を花や緑で彩られたガーデンとしたい。	○	○			○	○	特になし。	管理する花壇の一つで、リーダーが不在となり活動が停滞したことがある。また、町内会とうまくやっていくことも重要。	
		16	ゆめガ-デンサポ-ターズ(南羊ヶ丘町内会)	地域の人々が緑に触れ、楽しみを共有することの出来るコミュニティガ-デンづくりを目標としている。	○					○	特になし。	若い人の参加がないので世代交代に不安。活動費が足りない。	
		17	伏見ガ-デニングサークル陽だまり	「きれい・安心・安全」な町内を目指し、町内会員の有志で結成されたガ-デニングサークル。	○					○	○	特になし。	以前に地域住民とトラブルになったことがあり、活動に対する地域の理解を得ることが重要。
	単独型	8	NPO法人 シーズネット(花壇ボランティア)	花の世話を通じての「仲間づくり」「役割づくり」が主な目的。					○ ^{補注3}	○	特になし。	特になし。	
		10	グリーンエプロンズ	「オープンガ-デンへの愛情を地域でも役立てたい」という思い。					○	○	メンバーで育てた苗も持ち寄っている。	特になし。	
		11	札幌市立三角山小学校花壇ボランティア	季節の花で学校を彩り、無理なく楽しく活動を行うこと。					○	○	小学校からの運営費の助成。メンバーの会費。メンバーが種子から育てた苗を持ち寄っている。	特になし。	
		12	東札幌病院ボランティアグループいすみ	「ホスピス」なので、少しでも患者さん方の気持ち安らぐようにと、院内や屋上テラスなどで植物を管理している。						○	病院からの運営費の助成。	現在、活動は続いているが、活動者不足にある。	
		13	園芸療法「くり〜んの会」	福祉施設での施設利用者さん方に対する園芸療法の実践が目的。						○	施設からの運営費の助成。	福祉施設での活動なので、利用者の方には絶対に怪我などがないようにする。そのために細心の注意を払っている。	
		14	大学村の森を守る会	北海道在来の山野草や樹木が育つ地域の歴史を伝える森を守り、維持し、育むことが目的。						○	○	メンバーが種子から育てた苗を持ち寄っている。前年度栽培した植物から採取した種子を利用している。	高齢化によって健康上の理由によりメンバーが減っていく中、若い参加者がいないので今後不安。
		15	環境サポ-ターズ「三次郎の会」	地域の人々にとって公園をもっと身近で、魅力ある場所にするためのお手伝いをしたい。					○ ^{補注3}	○	地域住民などからの協賛金。	近隣の企業や住民に協賛金を募りに行くが、毎年活動資金の確保に苦労する。	
18	あるばローズ	白バラを中心に、季節ごとに彩りある花を植栽している。活動場所の大通公園は観光客も多いので道行く人を楽しんでもらいたい。						○	○	活動にスポンサーがついており、その企業からの助成。	活動資金が足りない。		
19	豊平公園 花とハーブの会	ハーブや宿根草などの栽培を楽しむこと、公園を多くの人に楽しんでもらうお手伝い。					○ ^{補注3}	○	特になし。	高齢化によってメンバーが徐々に減少傾向にあり、活動が先細りしつつある。			
20	市立札幌病院ボランティアの会 やさしさジェントル(園芸部)	病院の敷地に花を植え、また院内に飾るための花を育てたりと、病院を訪れる人や患者さんに花を楽しんでもらえればという思い。						○	○	病院からの運営費の助成。院内に募金箱設置。院内バザーの収益。	病院なので、植物に病害が発生しても、むやみに薬剤を使用できない。		

※該当する箇所「○」を記入。
 補注1：花苗や運営費の提供は、企業から提供される場合とし、植栽管理の協働実施については、企業と学校各々で実施される場合とする。
 補注2：このグループでは、花苗植栽の際に、町内会員はもとより、町内会員以外の住民による協力も多くみられる。
 補注3：これらのグループでは、公園管理事務所主導の活動のため、管理事務所によって花苗などが用費・提供される。

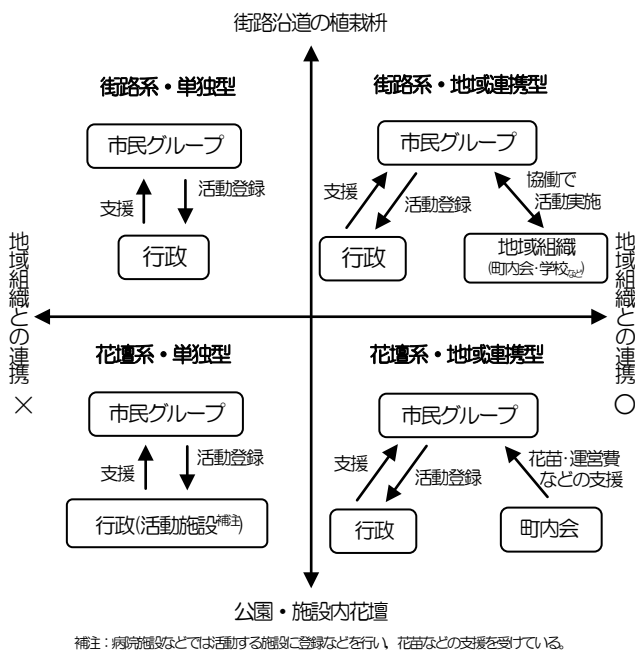


図-2 市民グループの類型化の模式図

組織と上記のような連携を行わず、グループ単独で活動を展開している市民グループを「単独型」とした。なお、本研究で対象とした 20 グループのうち、町内会本体による制度への登録は 1 グループもみられなかった。以上、市民グループを計 4 集団に類型化し、その結果を表-2 に、4 集団の模式図を図-2 に示す。これより 4 集団各々について述べていきたい。

(1) 街路系・地域連携型

この集団には、街路沿道の緑地帯で植物の維持・管理を行っている四つの市民グループ（グループ 2, 3, 4, 6）が該当する。この集団の特徴として、メンバーが活動場所周辺の地域の有志から成っており、総メンバー数が 50 名以上、実働メンバー数も 20～50 名と、調査対象 20 グループの中では大規模なグループで構成されていることが挙げられる。しかし、その中で、唯一グループ 2 に関しては、総メンバー数、実働メンバー数ともに 14 名と、他の三つのグループに比べて人数が少なく小規模のグループである。このように他のグループと規模の異なるグループがみられた理由として、統計的手法によらず分類したことが背景にあると考えられる。実働メンバーの年齢層をみると、グループ 2 で 30～60 代、グループ 4 で 40～70 代、グループ 3, 6 で 50～70 代であり、60 代以上の高齢層はもちろんのこと、30～50 代の中年層のメンバーの参加もみられる。

該当する四つのグループの活動目的をみると、グループ 2 では地域のつながりづくり、グループ 3, 4, 6 では地域の街路を美しい草花で彩ることであり、この集団では活動目的が美しいまち並みの形成や地域コミュニティの醸成など、より良いまちづくりへと向けられていた。四つのグループ全てで地域組織との連携を図っており、花苗の植付けでは、地域におけるイベントの一つとして地域住民とともに植栽を行っている。その際にグループ 3, 6 の活動では、近隣企業も CSR 活動の一環として植栽活動に携わっている。グループ 2, 4 では、近隣の小学校において総合学習の一環として通学路沿いに児童とともに花苗の植栽を行ったり、グループ 4, 6 では地域で行われるバザーに企画・出店するなど、地域住民との交流を積極的に行っている。このように、この集団は地域コミュニティにおいて幅広く活動展開することで、行政からは花苗などに関して町内会

と同程度の支援を受ける一方、近隣企業からの協賛金やバザー出店による収益などで運営費を捻出している。グループ 2 については、町内会からも運営費の一部補助を受けている。

この集団の課題として、グループ 3, 4, 6 では総メンバー、実働メンバーともに多く在籍していることから、日常の植栽管理を行う実働メンバーの確保に関するのではなく、将来的に活動を担う次世代のメンバーの確保・育成に関することが挙げられた。グループ 2 では、次世代のメンバーに関するよりも、町内会との良好な関係を継続していくことが挙げられた。

(2) 街路系・単独型

この集団には、街路沿道の緑地帯で活動する三つの市民グループ（グループ 1, 5, 7）が該当する。この集団の特徴として、メンバーは主に地域の有志から成っており、総メンバー数が 15～26 名で、実働メンバー数も 8～12 名と小規模のグループで構成されていることが挙げられる。実働メンバーの年齢層をみると、グループ 5 で 50～70 代、グループ 1, 7 で 60～70 代であった。

三つのグループ各々の活動目的をみると、グループ 1 では緑地帯の景観向上と植物栽培を楽しむこと、グループ 5 では楽しみながら街路沿道を草花で彩ること、グループ 7 では無理なく楽しく活動することと、この集団では美しいまち並み形成などのまちづくりはもとより、無理なく植物の管理を通じてメンバー同士で楽しみを共有することを目的に活動していることがわかる。また、町内会や近隣企業との協働での活動展開など、地域組織との連携を行っていないことから、共通の趣味や興味などでつながるサークル活動の要素が強いことがうかがえる。そのため、活動に必要な花苗などの資材は行政からの支援やメンバー個人による持ち込み、そして前年度栽培した植物から採取した種子の利用が中心となっている。

この集団の課題としては、「街路系・地域連携型」とは異なり、植栽の管理を担う実働メンバーの確保が課題として挙げられた。その理由として、もともと団体規模が小さく実働メンバーが「街路系・地域連携型」に比べて少ないことと、高齢化による健康上の理由から参加できなくなるメンバーの現れていることが関係していると考えられる。

(3) 花壇系・地域連携型

この集団には、住宅地の区画整理や道路整備で生じた遊休地・道路残地に造られた花壇で活動する三つの市民グループ（グループ 9, 16, 17）が該当する。この集団の特徴としては、メンバーが地域の有志から成っており、総メンバー数 16～23 名で、実働メンバー数も 6～16 名と小規模のグループで構成されていることが挙げられる。実働メンバーの年齢層をみると、グループ 9 は不明、グループ 17 で 40～70 代、グループ 16 で 60～70 代であった。この集団では「街路系・地域連携型」ほど、幅広い活動展開は行っていない。また、グループ規模も小さいため、町内会から運営費の補助を受け連携を図っている。中でもグループ 17 では、グループ代表が町内会の役員も務めており、町内会とのつながりが強い。

該当する三つのグループの活動目的をみると、グループ 9 では「みんなで作る花壇」をテーマに、もともとある緑とともにまち全体をガーデン化すること、グループ 16 では地域住民がともに共有できるガーデンを創ること、グループ 17 では「きれい・安心・安全」な町内環境の整備を目的としており、三つのグループともに地域の景観向上やコミュニティ醸成など、地域へと目が向けられている。

この集団の課題としては、主にリーダーや次世代のメンバー獲得と地縁団体や地域住民との良好な関係維持が挙げられた。グループ 9 では、六カ所ある花壇ごとに担当リーダーがおり、

彼らを中心に活動が展開されているが、その一つでリーダー不在となり活動の停滞がみられたことから、次を担うリーダーの発生を期待していた。また、町内会とのつながりが強く、支援も受けていることから、活動運営のためには町内会との良好な関係維持も課題として挙げられた。グループ 16 では、グループの次世代を担う後継者の獲得と、運営費の確保に関することが課題として挙げられた。グループ 17 では、花壇周辺に居住する住民から、花壇の景観や土壌に関することで苦情が寄せられたことがあり、周辺住民の理解を得られるよう、良好な関係を築いていくことが課題として挙げられた。

(4) 花壇系・単独型

この集団には、他の 3 集団と比較して最も多く十の市民グループ（グループ 8, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 18, 19, 20）が該当する。この集団の特徴として、メンバーが地域の有志から構成されるところもあれば、一方で地域外からの有志で構成されるところもあり多様である。グループ規模は基本的に総メンバー数が 6~25 名、実働メンバー数も 6~15 名の小規模であることが挙げられる。しかし、グループ 8 のみ、総メンバー数、実働メンバー数ともに 43 名と、同集団の中ではメンバー数の多いグループである。実働メンバーの年齢層をみてみると、グループ 11 で 30~40 代、グループ 10 で 30~60 代、グループ 12, 13 で 50~60 代、グループ 18, 20 で 50~70 代、グループ 8, 14, 15, 19 で 60~70 代であり、一定の年齢層で構成された多彩なグループから成っている。

この集団では、地域組織との連携、交流は特別に行っておらず、「街路系・単独型」同様にサークル活動の要素が強く、活動目的も多様化している。グループ 8, 15, 19 では、活動する公園を管轄する管理事務所の指導のもと、植物の維持・管理を行っており、美しい地域の景観づくりというよりも、植物管理やメンバーとの交流を楽しむことに重きをおいている。中でも、グループ 15, 19 では、活動を楽しむと同時に、多くの市民にとってより身近な場所となるよう公園の魅力を伝えることも目的としている。グループ 10, 18 はメンバーがオープンガーデンの実施者や園芸学校の受講生など、園芸に関心のある市民による集まりで、活動場所の近隣以外からのボランティアの参加もみられる。そのため園芸技術を活かして、まちづくりに貢献したいという目的で活動している。グループ 11 は小学校の PTA の有志によるボランティアサークルである。活動場所が小学校内の花壇であるが、児童と協働での植栽管理などは特別行っておらず、あくまでもメンバーのみでの活動として行われている。活動目的は、児童らのために校内を美しい花々で彩るとともに、自身も無理なく楽しく活動することとしている。グループ 12, 13, 20 は、病院や福祉施設で活動している市民グループである。活動目的をみてみると、病院や施設の緑化や景観向上はもとより、入院患者や施設利用者に対して、身近にみどりを感じることで空間の提供を目的としている。特にグループ 13 では、施設利用者への園芸療法を目的としており、他の市民グループとは性格が異なっている。グループ 14 では、園芸植物を植栽して維持・管理するのではなく、札幌市に自生している山野草を維持・管理し、古くからの景観を守ることを目的としている。

このように活動目的がグループによって様々であることに伴い、現在、各グループが抱えている運営上の課題も多数挙げられた。グループ 12, 19 では「街路系・単独型」同様、実働メンバーの確保が挙げられた。グループ 15, 18 では運営費に関する事が重要な課題であることがわかった。グループ 13, 20 では、活動場所が病院や福祉施設ということもあり、施設内の植物への薬剤処理に対する配慮や、病院患者や施設利用者の

怪我などが無いよう、細心の注意を払うことが重要な課題とされていた。また、グループ 8, 10, 11 では運営上の課題は、現在特別にないという回答であった。

4. 考察

本研究では、札幌市を事例として、まち中の公共空間で園芸ボランティア活動を行う市民グループを、活動場所の相違により「街路系」と「花壇系」に分類した。さらにこれら二つの系統各々について、地域組織との連携による活動展開の有無により、「地域連携型」と「単独型」に分類し、市民グループを計 4 集団に分類した。以下より、それら 4 集団各々への支援のあり方などについて考察していきたい。

活動目的が美しいまち並みの形成や地域コミュニティの醸成など、まちづくりへと目が向けられている「街路系・地域連携型」では、運営上の課題として、後継者の確保・育成に関することが挙げられた。この集団では、今後の活動を担いうる 30~50 歳代のメンバーも在籍しているが、実働メンバーの中心は他のボランティア活動同様、60 歳以上の世代であると考えられる。よって、活動継承のため、仕事・子育て世代である次世代の人々でも無理なく活動できるよう、彼らの活動しやすい活動日や活動時間帯の設定など、活動環境を整えることが望まれる。また、連携する地域組織を通じて、若い世代に向けて参加を呼びかけることや、門田ら¹²⁾が述べているように、行政や同様の課題に直面する他グループなど、多主体と連携して育成方法について検討し、取り組むための支援が必要と考えられる。一方で、この集団では多くのボランティア活動で問題となっている実働メンバー確保¹³⁾については課題として挙げられなかった。その理由として、この集団に属するグループのほとんどで、もともと実働メンバー数の多いことと、労力の要する花苗植栽などの際に地域組織と協働で活動して人材の共有を図っていることが背景にあると考えられる。今後、より一層地域組織などとの連携を深められるよう、積極的な意見交換や交流の行われることが期待される。

サークル的な要素の強い「街路系・単独型」では、運営上の課題として、「街路系・地域連携型」とは異なり実働メンバーの確保に関することが挙げられた。この集団では活動場所が街路沿道ということもあり、活動範囲が街路に沿って長くなる傾向にある。そのため、活動範囲が集約される公園花壇とは異なり、花苗の植え付けや植栽管理以外に、活動範囲内を移動する際にも労力を必要とする。よって、メンバー数が少なく、年齢層の高いこの集団では、メンバー一人当たりの体力的負担が大きくなり、そのことが本集団の課題に起因していると推察される。今後、活動を継続的に運営していくためには、「街路系・地域連携型」のように、花苗の植栽の際などでは、町内会や近隣の企業・学校などの地域組織、さらには「街路系・地域連携型」に属するグループなどとも連携して人材を共有できるような仕組みづくりが必要と考えられる。

「花壇系・地域連携型」では、「街路系・単独型」と同じように、小規模グループによる集団ではあるものの、活動運営上の課題として、実働メンバーの確保については挙げられなかった。これは、街路系に比べ、活動場所が遊休地や道路残地に設置された花壇という一部分に限定されており、小規模グループでも十分に対応できる活動範囲であることが背景にあると考えられる。この集団の課題としては、将来的に活動を担う後継者の確保と、町内会や地域住民との良好な関係の維持や構築に関することが挙げられた。そのため、後継者確保に関しては「街路系・地域連携型」と同様に、活動環境を整えることや共通の課題を抱えるグループと連携して取り組むことが求められる。また、

町内会や地域住民との良好な関係を維持・構築していくためには、彼らと協働で花植えを行ったり、話し合いや交流する機会をより多くもち、活動やグループに対する彼らの理解や認識をより深められるような、イベントの企画・提案などの支援が重要と考えられる。

「花壇系・単独型」は「街路系・単独型」同様、メンバー数が小規模のグループで構成されており、また地域組織との連携も弱いことからサークル的要素の非常に強い集団である。地域の有志によって結成されたグループがある一方、地域外の有志による活動も多くみられ、多彩なボランティアグループがみられることが特徴である。そのため、課題についても、運営費や実働メンバー不足に関すること、そして病院施設などでは施設特有の問題など、様々な課題を抱えているグループがある一方、現時点では課題を抱えてはいないというグループもみられた。課題の解決に向けて、運営費調達に関しては行政の財源ひっ迫で物質的な支援が縮小傾向にある現代において、さらなる補助などを期待することは難しい現状にある。そのため、兵庫県内の住民グループに関する藤本・中瀬の研究¹⁴⁾でも述べられているように民間助成獲得に関する支援がますます重要といえよう。実働メンバーの不足については、「街路系・単独型」でも述べたように、多主体と連携し人材を共有できるような仕組みが必要と考えられる。また、活動施設特有の課題については、共通の活動内容のグループ同士で連携し情報交換などを行う必要がある。課題を特別抱えていないグループに対しては、現在のグループの特色をさらに発揮できるように、同様の活動目的をもつグループ同士で情報交換する機会を設け、互いに刺激し合うことで、活動の活性化のなされることが期待される。

以上のように、活動場所や地域組織との連携の違いにより4集団に類型化することができ、各集団で課題の異なることが明らかとなった。「街路系・地域連携型」では後継者の確保・育成に関する支援、「街路系・単独型」では実働メンバー確保に関する支援、「花壇系・地域連携型」では「街路系・地域連携型」同様、後継者に関する支援と、町内会や住民との良好な関係の維持・構築に関する支援、「花壇系・単独型」では資金面や実働メンバー確保、活動施設特有の課題解決に向けた支援の必要性が考えられた。4集団各々への支援策には、いずれも行政、地域組織、ボランティアグループなど、多様な主体同士の連携が求められ、そのためには各主体間のさらなるネットワークの構築や拡充が重要といえる。また、活動主体間の連携を円滑に行っていくためには、山崎ら⁹⁾が述べているように、行政の担当機関の他に、各々の主体間を結び支援を行う組織や仕組みについて今後検討する必要がある。なお、本研究では活動する市民グループの類型化を行うに当たり、統計的な手法を用いなかったため、「街路系・地域連携型」と「花壇系・単独型」において、各々のグループ規模と合致しないグループがみられた。今後、園芸ボランティア活動に関する市民グループの類型化において、統計的手法を用いて詳しい分析のなされることが期待される。

謝辞：本研究を遂行するにあたり、調査にご協力いただいた各市民グループの代表の方々をはじめ、参考資料をご提供いただいた札幌市みどりの推進課の阿部玲奈氏、さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の都築仁美氏に感謝の意を表します。

引用文献

- 1) 社団法人食品容器環境美化協会 (2012) : アダプト・プログラム導入概況一覧(全国普及状況,最新更新日:2012年3月) (<http://www.kankyobika.or.jp/adopt/domestic-activities>) (参照日:2012年11月26日)
- 2) Lewis, C. A. (1996) : Green nature/human nature : University of Illinois Press, IL, 148pp
- 3) 金子忠一・内山正雄 (1983) : 都市公園の管理体制についての研究—特に、公園愛護会の発祥と現状の調査分析— : 造園雑誌 46(5), 99-104
- 4) 中瀬 勲・林まゆみ (2002) : みどりのコミュニティデザイン : 学芸出版社, 東京, 222pp
- 5) 財団法人都市緑化基金 (2005) : コミュニティガーデンのすすめ : 誠文堂新光社, 東京, 103pp
- 6) 根来千秋・渡辺達三 (1987) : 児童公園等の管理における地域住民の参加・協力に関する考察 : 都市計画別冊 (22), 271-276
- 7) 島尾 勝・西川 清・内芝 平 (1993) : 住民参加による緑化活動の組織化に関する研究 : 造園雑誌 56(4), 337-349
- 8) 岩村高治・横張 真 (2001) : 神戸市における地域住民による公園管理の実態とその展望 : ランドスケープ研究 64(5), 671-674
- 9) 山崎雄弘・柳井重人・秋田典子 (2011) : 幕張ベイタウンにおける住民参加型都市公園管理の地区全域での展開に向けた課題 : ランドスケープ研究 74(5), 575-580
- 10) 亀野辰三・熊野 稔・岩立忠夫 (2002) : わが国における住民参加型道路美化活動の現状と評価 : ランドスケープ研究 65(5), 837-840
- 11) 札幌市環境局みどりの推進部 (2012) : 札幌市環境局みどりの推進部平成24年度事業概要 (最新更新日:2012年7月) : (<http://www.city.sapporo.jp/ryokuka/shiryo/documents/2012072002.pdf>) (参照日:2012年11月26日)
- 12) 門田さやか・柳井重人・秋田典子 (2011) : 官民協働による樹林保全の担い手育成と活動の定着に関する研究 : ランドスケープ研究 74(5), 693-698
- 13) 原 未季・一ノ瀬友博 (2009) : 神奈川県横浜市及び鎌倉市において里山保全活動を行う市民団体の特徴と課題 : 都市計画報告集 7, 77-81
- 14) 藤本真里・中瀬勲 (2000) : 兵庫県丹波地域における住民グループ活動の実態把握に関する一考察 : ランドスケープ研究 63(5), 709-714